

(案)

豊川市生活排水処理基本計画

平成 20 年 月
豊 川 市

豊川市生活排水処理基本計画 目次

第1章 本市の概要

1. 自然的条件	1
(1)地勢	1
(2)河川	1
(3)気候	4
2. 社会的条件	5
(1)人口	5
(2)農業	6
(3)工業	6
(4)商業	7
(5)土地利用状況	7
(6)水利用状況	8
(7)観光	9

第2章 基本的事項

1. 計画の位置づけ	10
2. 関連計画	10
3. その他	10
(1)市町合併による取扱い	10
(2)浄化槽の表記について	10

第3章 基本目標等

1. 基本目標	11
2. 生活排水処理施設の整備に関する基本方針	11
3. 目標年度	11

第4章 生活排水の排出状況

1. 生活排水の処理フロー	12
2. 生活排水処理形態別人口の推移	13
3. し尿・汚泥の排出状況	13
4. 生活排水の処理主体	14

第5章 生活排水処理基本計画

1 . 生活排水処理の目標	15
2 . 生活排水処理施設の整備状況	15
(1) 公共下水道の整備	15
(2) 農業集落排水処理施設の整備	17
(3) 合併処理浄化槽の普及・促進	18
(4) 生活排水処理施設の総合整備計画とその効果	19
3 . し尿・浄化槽汚泥の処理計画	20
(1) 収集運搬計画	20
(2) し尿及び浄化槽汚泥の処理計画	20
4 . その他	20

第1章 本市の概要

1. 自然的条件

(1) 地勢

本市は愛知県の東南部に位置し、面積は150.43 km²となっています。地形的には、市の北側には山が連なり、中央部から南に広がる平野部には自然が多く残された多くの河川が流れ、さらに南側には三河湾に面するなど、山、川、海といった多様な自然環境から形成されています。

(2) 河川

市内には、1級河川6河川、2級河川9河川を始め計66河川あります。

表1-1 河川の概要(1)

河川名	延長(m)	市内分(m)	流域面積(km ²)	区分
とよ 豊川	76,958	13,100	723.7	1級
とよかわほうすい 豊川放水路	6,600	1,220	14.2	1級
ぜんこうじ 善光寺川	2,500	1,095	3.5	1級
ぜんこうじ 善光寺川	2,052	2,052	2.9	準用
ふる 古川	2,295	2,295	5.2	1級
あいだ 間川	8,835	995	21.4	1級
くりやな 栗八名川	1,100	1,100	2.4	準用
たから 宝川	5,880	5,880	7.9	準用
しらとり 白鳥川	1,608	1,608	—	普通
ほうじ 宝地川	1,220	1,220	—	普通
あらさわ 荒沢川	725	725	—	砂防
ならがめ 長良女川	1,500	1,500	0.9	普通
かに 蟹川	1,900	1,900	1.4	砂防
まつもと 松本川	150	150	—	準用
まつもと 松本川	3,520	3,520	3.5	砂防
わるさわ 悪沢川	510	510	—	砂防
みやで 宮出川	1,985	1,985	1.3	砂防
シヤラ川	295	295	—	普通
さかい 境川	349	349	—	1級(県管理)
さかい 境川	3,750	1,900	—	砂防
さうと 猿音川	330	330	—	砂防

表1 - 2 河川の概要(2)

河川名	延長(m)		流域面積 (km ²)	区分
		市内分(m)		
さな 佐奈川	14,429	7,150	35.1	2級
すわ 諏訪川	4,405	4,405	7.6	準用
こうや 高野川	760	760	—	普通
みづくほ 水久保川	620	620	—	砂防
みや 宮川	1,830	1,830	—	砂防
ざいかぐち 財賀口川	530	530	—	砂防
さな 佐奈川	4,130	4,130	—	砂防
にしくら 西鞍川	1,290	1,290	—	砂防
しみず 清水川	860	860	—	砂防
おび 帯川	4,966	4,966	9.9	2級
どど 土々川	2,800	2,800	4.3	準用
いしやどの 石捨殿川	1,055	1,055	—	普通
くろや 黒谷川	2,730	2,730	2.4	砂防
にし 西川	1,695	1,695	1.5	砂防
みと 御津川	4,336	4,336	8.9	2級
さかい 堺川	890	890	—	準用
みやまえ 宮前川	760	760	1.0	準用
あおき 青木川	710	710	0.7	準用
かんのんじ 観音寺川	800	800	—	砂防
くまの 熊野川	820	820	—	砂防
ふかさわ 深沢川	200	200	0.4	準用
うえの 上野川	475	475	—	砂防
みと 御津川	3,980	3,980	—	砂防
むらさき 紫川	2,400	1,750	2.5	2級
さがら 相楽川	430	80	—	普通
え 江川	440	440	0.3	準用
にしがた 西方川	260	260	0.8	準用

表1 - 3 河川の概要(3)

河川名	延長(m)		流域面積 (km ²)	区分
		市内分(m)		
おとわ 音羽川	12,477	12,477	63.7	2級
しら 白川	10,829	10,829	24.2	2級
だいだ 代田川	955	955	0.2	準用
いなつか 稲束川	1,218	1,218	1.8	準用
ドウニヤ川	225	225	—	普通
こうじ 小路川	390	390	—	普通
しら 白川	2,210	2,210	—	砂防
さいこせ 西古瀬川	7,078	4,800	7.4	2級
さいこせ 西古瀬川	720	720	—	砂防
あんどう 安藤川	400	400	2.0	2級
てんのう 天王川	1,420	1,420	1.0	準用
やまかげ 山陰川	3,735	3,735	12.2	2級
ながね 長根川	1,310	1,310	1.9	準用
さるた 猿田川	725	725	—	準用
ながね 長根川	745	745	—	砂防
むろ 室川	1,300	1,300	1.8	準用
むろ 室川	430	430	—	砂防
ちどり 千鳥川	1,100	1,100	—	準用
てらやま 寺山川	300	300	—	準用
くだの 久田野川	585	585	1.1	準用
くだの 久田野川	730	730	—	砂防
やまかげ 山陰川	2,100	2,100	—	準用
やまかげ 山陰川	590	590	—	砂防
さいなわて 西縄手川	1,100	1,100	0.9	準用
さいなわて 西縄手川	210	210	—	砂防
みょうがさわ 明ヶ沢川	645	645	—	準用
しもやげ 下谷下川	1,450	1,450	1.7	準用
きやま 切山川	2,735	2,735	—	砂防
おざわ 小沢川	660	660	—	砂防
かみやげ 上谷下川	1,660	1,660	1.1	準用
せんぞく 千束川	1,340	1,340	2.9	準用

(市建設部資料より作成)

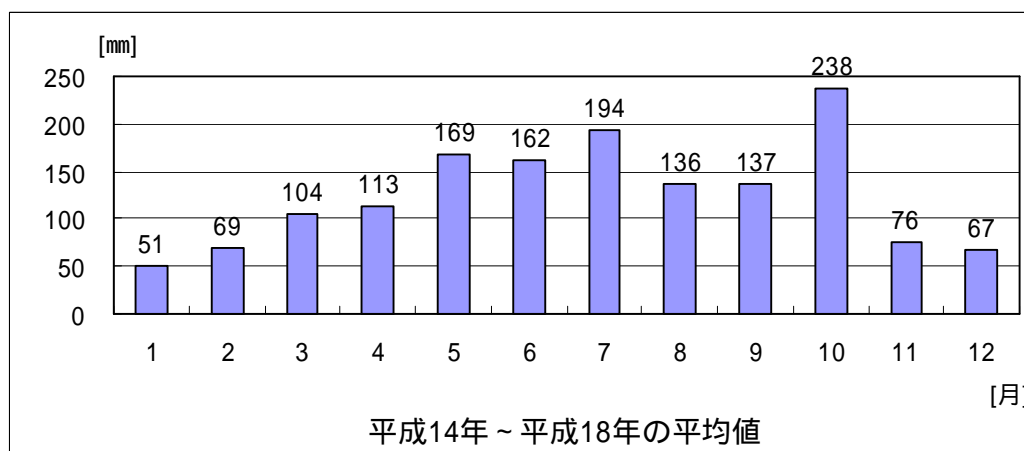
(3) 気候

気候は太平洋岸型気象で、温暖で住みやすい地域です。過去5年間の年平均気温は16.1～17.2、年間降水量は1,108.5～1,805.0mmでした。

表1 - 4 気象の概要

年次 (月)	天 気 日 数					降雨 日数	降雨量(mm)		気温()		
	快晴	晴	曇	雨	雪		総量	最大日量	平均	最高	最低
平成14年	34	157	147	27	0	107	1,175.0	119.5	16.3	35.4	-2.3
平成15年	31	156	127	51	0	132	1,805.5	93.5	16.1	36.0	-3.2
平成16年	21	215	93	37	0	98	1,723.5	155.5	17.2	36.2	-2.1
平成17年	22	188	116	38	1	65	1,108.5	97.5	16.1	34.8	-2.2
平成18年	16	175	128	46	0	119	1,766.5	142.0	16.3	37.0	-2.8
1月	4	14	10	3	0	7	37.5	23.0	4.9	15.1	-2.4
2月	1	13	10	4	0	8	141.0	65.5	6.6	20.2	-2.8
3月	1	16	9	5	0	10	89.0	27.0	8.4	18.6	-1.0
4月	1	11	16	2	0	11	185.0	66.0	13.4	23.5	3.5
5月	0	12	10	9	0	14	305.5	142.0	18.9	28.0	8.7
6月	1	12	13	4	0	10	219.0	70.0	22.9	31.8	16.3
7月	2	6	19	4	0	14	276.5	59.5	26.4	37.0	20.5
8月	0	23	8	0	0	7	88.0	59.0	28.0	36.2	22.0
9月	2	13	11	4	0	9	150.5	47.0	24.0	33.2	16.8
10月	2	17	9	3	0	13	95.0	28.0	19.9	27.7	13.1
11月	1	18	8	3	0	8	82.0	40.0	13.9	23.3	5.5
12月	1	20	5	5	0	8	97.5	69.5	8.4	15.8	0.9

(豊川市消防本部資料より作成)



(豊川市消防本部資料より作成)

図1 - 1 月別降水量

2. 社会的条件

(1)人口

本市の人口は平成 17 年において 159,563 人、世帯数は 54,502 世帯となっています。核家族化の進行により、平均世帯人員の減少傾向は今後も続くと思われています。

D I D人口は、平成 17 年で 89,456 人と総人口の 56.1%を占めています。昼夜間人口を比較すると、夜間人口の方がやや多くなっています。

就業者数は平成 17 年で 86,223 人であり、第 3 次産業の就業者が増加しています。

表1 - 5 人口の変化

項目		年次			
		平成 2	平成 7	平成 12	平成 17
面積 (km ²)		150.32	150.32	150.43	150.43
人口 (人)		147,863	151,157	155,034	159,563
人口密度 (人/km ²)		984	1,006	1,031	1,061
世帯数 (世帯)		42,743	46,193	50,112	54,502
世帯人員 (人/世帯)		3.5	3.3	3.1	2.9
夜間人口 (人)		147,863	151,144	155,022	159,521
昼間人口 (人)		142,385	144,548	150,365	155,441
昼間人口比 (%)		96.3	95.6	97.0	97.4
就業者数 (人)	第 1 次産業	7,030	6,688	6,527	6,252
	第 2 次産業	36,704	36,013	35,067	32,997
	第 3 次産業	37,603	41,945	43,645	46,411
	合計	81,392	84,990	85,448	86,223
D I D 人口 (人)		64,876	70,363	72,002	74,402
		13,381	14,458	15,346	15,054
	合計	78,257	84,821	87,348	89,456
D I D 面積 (km ²)		13.7	15.3	15.4	15.4
		2.6	2.7	2.9	2.8
	合計	16.3	18.0	18.3	18.2

注) 就業者数の合計には産業分類不能も含むため、第 1 次産業から第 3 次産業を足した数値と一致しません。

(「国勢調査報告」H.17 総務省統計局より作成)

(2) 農業

平成 17 年における総農家数は 3,717 戸でした。産出額は野菜類がもっとも大きく、次いで花きとなっています。

表1 - 6 農業の状況

項目	年次	平成 2	平成 7	平成 1 2	平成 1 7
	農家戸数(戸)		4,542	4,252	4,149
専業		730	648	660	614
第 1 種兼業		738	810	587	507
第 2 種兼業		1,972	1,732	1,676	1,342
自給的農家		1,102	1,062	1,226	1,254
産出額(百万円)		21,625	20,856	20,925	19,350
米		1,378	1,472	1,230	1,080
麦豆いも類		236	235	167	190
野菜		10,815	10,116	11,627	10,090
果実		1,244	1,376	1,561	1,090
花き		3,829	4,629	3,970	4,160
種苗苗木他		278	115	36	120
畜産		3,835	2,908	2,331	2,610
加工農産物		10	5	3	10

(「農業センサス」「愛知農林水産統計年報」より作成)

(3) 工業

伝統的な地場産業の農機具、銅釜、家具等を主体としていましたが、積極的な工場誘致により、輸送機器、機械、電気機械を中心とした工業が進出し、東三河工業整備特別地域の中で内陸工業の中核を担っています。

表1 - 7 工業の状況

項目 年次	事業所数	従業員数 (人)	製造品出荷 額等(万円)	製造品出荷 額等 指数
H. 13	683	24,479	98,668,212	100.0
H. 14	635	23,319	90,507,595	91.7
H. 15	663	23,764	93,606,027	94.9
H. 16	621	23,963	96,031,377	97.3
H. 17	631	25,048	109,064,843	110.5

注1) 事業所数、従業者数は隔年 12 月 31 日現在、出荷額については1月1日から12月31日の実績である。

2) 製造品出荷指数は、平成 13 年を 100.0 とした。

(「豊川市の工業」「みとちょうの統計」「おとわの統計」より作成)

(4) 商業

平成 16 年の本市の商業は、商店数 1,956 店、従業者数 12,885 人となっています。市内の商店街は分散していますが、小規模経営が多く、高齢化してきており、全般として商業機能の停滞が見られました。しかし、一部には都市再開発にあわせて魅力ある街づくりの計画も進められています。

表 1 - 8 商業の状況

項目 年次	商店数	従業員数 (人)	商品販売額 (百万円)	商品販売額 指数
H. 6	2,203	11,689	283,937	100.0
H. 9	2,216	11,953	294,185	103.6
H. 11	2,210	13,573	328,191	115.6
H. 14	2,075	13,520	313,395	110.4
H. 16	1,956	12,885	320,280	112.8

注)商品販売額指数は、平成6年度を 100.0 とした。

(「あいちの商業」県企業振興部より作成)

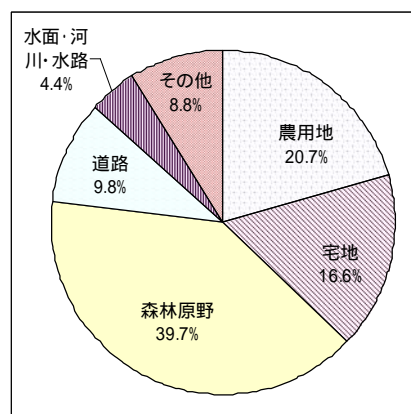
(5) 土地利用状況

本市の総面積は 15,043ha であり、その内訳は森林・原野・雑種地等が 5,973ha を占め、次いで農用地が 3,112ha、宅地が 2,499ha、道路、水路等、その他が合わせて 3,459ha となっています。

また、平成 18 年の市街化区域は全体の約 20% で、市街化調整区域は残り約 80% となっています。市街化区域では、住宅的地域の割合が高くなっています。

表 1 - 9 地目別土地利用

区分	面積(ha)	割合(%)
総面積	15,043	100.0
農用地	3,112	20.7
宅地	2,499	16.6
森林原野	5,973	39.7
道路	1,468	9.8
水面・河川・水路	663	4.4
その他	1,328	8.8



(「土地に関する統計年報 平成 18 年版」県地域振興部より作成)

表1 - 10 用途区域別面積

区 分		面積 (ha)	割合 (%)
市 街 化 区 域	住居的地域	1,840	12.2
	商業的地域	296	2.0
	準工業的地域	472	3.1
	工業的地域	474	3.2
	小計	3,082	20.5
市街化調整区域		11,961	79.5
合 計		15,043	100.0

注) 割合は合計に対するものである。

(「豊川市の統計」、「おとわの統計」、「みとの統計」H.18より作成)

(6) 水利用状況

本市の水利用は、上水道、工業用水、農業用水があります。また、水域利用としては観光、レクリエーション等があります。

本市の給水区域は、市内全域で 103.61 km² となっています。給水は愛知県水道水供給事業からの受水と、地下水(深井戸)による自己水でまかっています。給水人口は表 5 - 1 1 に示すように 163,538 人であり、普及率は 99.7% です。本市を流れる 1, 2 級河川からの水利権の状況は表 1 - 1 2 に示したとおりです。

また、漁業権は本市には設定されていません。

表1 - 11 上水道の状況(平成 18 年度)

区 分	
行政区域内人口(人)	163,538
給水区域内人口(人)	163,538
給水人口(人)	162,991
普及率 (%)	99.7
1人1日平均配水量()	338

(「豊川市下水道部 資料」より作成)

表1 - 12 水利権の状況(平成 18 年度)

河川名	目的	取水量 (m^3 / S)
豊川	上水道用水	0.115
白川	農業用水	1.075
帯川	農業用水	0.758
音羽川	農業用水	0.313
山陰川	農業用水	0.130
西古瀬川	農業用水	0.121
御津川	農業用水	0.110

(県建設部資料より作成)

(7) 観光

市内には観光資源として、歴史と伝統のある重要文化財としての三明寺をはじめ三河国分寺、国分尼寺跡、国の天然記念物である御油の松並木など多く点在しています。なかでも、日本三大稲荷のひとつとして有名な豊川稲荷には年間を通じて多くの参拝客が訪れています。

表1 - 13 観光の状況(平成 18 年度)

観光資源名	観光人口 (人)	観光資源名	観光人口 (人)
豊川稲荷	3,317,000	ウォーキングセンター	25,331
砥鹿神社	402,000	観音山(財賀寺)	25,000
赤塚山公園	310,266	三河臨海緑地日本列島	22,800
本宮の湯	301,804	御津山園地	17,100
豊川市民まつり	210,000	つつじまつり	17,069
東三河ふるさと公園	149,249	うなこうじ祭	14,500
三明寺公園	125,000	みとまつり	8,000
諏訪の桜トンネル	40,000	もみじまつり	1,200
法往寺	37,400	合 計	5,060,231
宮地山	36,512		

(「H18 愛知県観光レクリエーション利用者統計」より作成)

第2章 基本的事項

1. 計画の位置づけ

市町村は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第6条第1項の規定により、当該市町村の区域内における一般廃棄物の処理に関する計画（以下「一般廃棄物処理計画」という。）を定めることとなっています。

一般廃棄物処理計画は、長期的視点に立った市町村の一般廃棄物の基本方針となる計画（一般廃棄物処理基本計画）と、基本計画に基づき年度ごとに一般廃棄物の排出の抑制、減量化・再生利用の推進、収集、運搬、処分等について定める計画（一般廃棄物処理実施計画）から構成されるものであり、それぞれごみに関する部分（ごみ処理基本計画）及び生活排水に関する部分（生活排水処理基本計画）から構成されているものです。

本計画は、このうち「生活排水処理基本計画」に該当するものであり、生活排水処理に関して具体的施策を示し、生活排水の発生・排出から最終処分に至るまでの、生活排水の適切な処理を長期的・総合的視点から計画するものとします。

2. 関連計画

本計画は、市の上位計画として第5次豊川市総合計画（平成18年度～27年度）の基本方針を踏まえる他、以下の計画を上位計画と位置づけ、その整合性を図るものとします。

豊川市環境基本計画
豊川市下水道基本計画
豊川市都市計画マスタープラン
全県域污水適正処理構想

3. その他

(1) 市町合併による取扱い

本市は、平成18年2月1日に宝飯郡一宮町、平成20年1月15日に宝飯郡音羽町並びに同郡御津町と合併しました。

よって、本計画のデータについては、旧豊川市、旧宝飯郡3町（一宮町、音羽町、御津町）の実績データを合算したものとします。

(2) 浄化槽の表記について

平成12年の浄化槽法の改正により、浄化槽の定義が変更になりましたが、本計画では従来の「合併処理浄化槽」と「単独処理浄化槽」で表記することとし、「浄化槽」は合併処理浄化槽と単独処理浄化槽の総称とします。

- ・「合併処理浄化槽」：現在では「浄化槽」といい、し尿及び雑排水を合わせて処理します。
- ・「単独処理浄化槽」：現在では「みなし浄化槽」といい、し尿のみを処理し、雑排水を処理しない浄化槽です。

第3章 基本目標等

1. 基本目標

住民の生活様式の変化に伴い生活排水の増加などから、河川の水質汚濁が問題となっており、本市においても社会的にその対策の必要性が深く認識されるようになっていきます。

このような状況から、生活排水処理の課題を改善し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るには、総合的かつ長期的に生活排水対策を推進していく必要があります、快適で豊かな水環境の創出を目指すこと基本目標とします。

2. 生活排水処理施設の整備に関する基本方針

本市では、生活排水処理の方針として、人口密度の高い地域は、汚水を一箇所に集め「公共下水道」で処理し、人口密度が低い地域など集合処理が不適当と判断される地域には「合併処理浄化槽」で処理します。このほか、郊外の農村集落では、比較的小規模な集合処理である「農業集落排水処理施設」を地域住民の合意のうえ施設整備を行います。現時点では、生活排水の処理は基本的にこの3つの生活排水処理施設で処理する方針です。

しかし、公共下水道の整備には多大な時間と費用を要することから、公共下水道の整備予定区域であっても、即効性のある合併処理浄化槽による暫定的な設置を奨励します。同時に、発生負荷量そのものを削減するために、家庭における生活排水対策に係る設備・資材の利用を働きかけます。

表3 - 1 生活排水処理施設の整備に関する基本方針

整備方針	処理対象区域等
公共下水道の整備	・人口密度の高い地域
農業集落排水処理施設の整備	・農業振興地域
合併処理浄化槽の普及・促進	・人口密度が低い等集合処理が不適当な地域 ・当分下水道整備が進まない地域

3. 目標年度

本計画は平成20年度を初年度として、5年後の平成24年度を中間年度、そして目標年度を10年後の平成29年度とします。

なお、社会情勢の変化などにより途中年度で見直す必要が生じた時には、計画の見直しを行います。

第4章 生活排水の排出状況

1. 生活排水の処理フロー

本市における生活排水の現状の処理フローを図4 - 1に示します。

生活排水の処理は、公共下水道、農業集落排水処理施設、合併処理浄化槽での処理を推進しています。

し尿汲み取り便槽、単独処理浄化槽、合併処理浄化槽から発生するし尿や浄化槽汚泥は、豊川宝飯衛生組合処理場で処理しています。

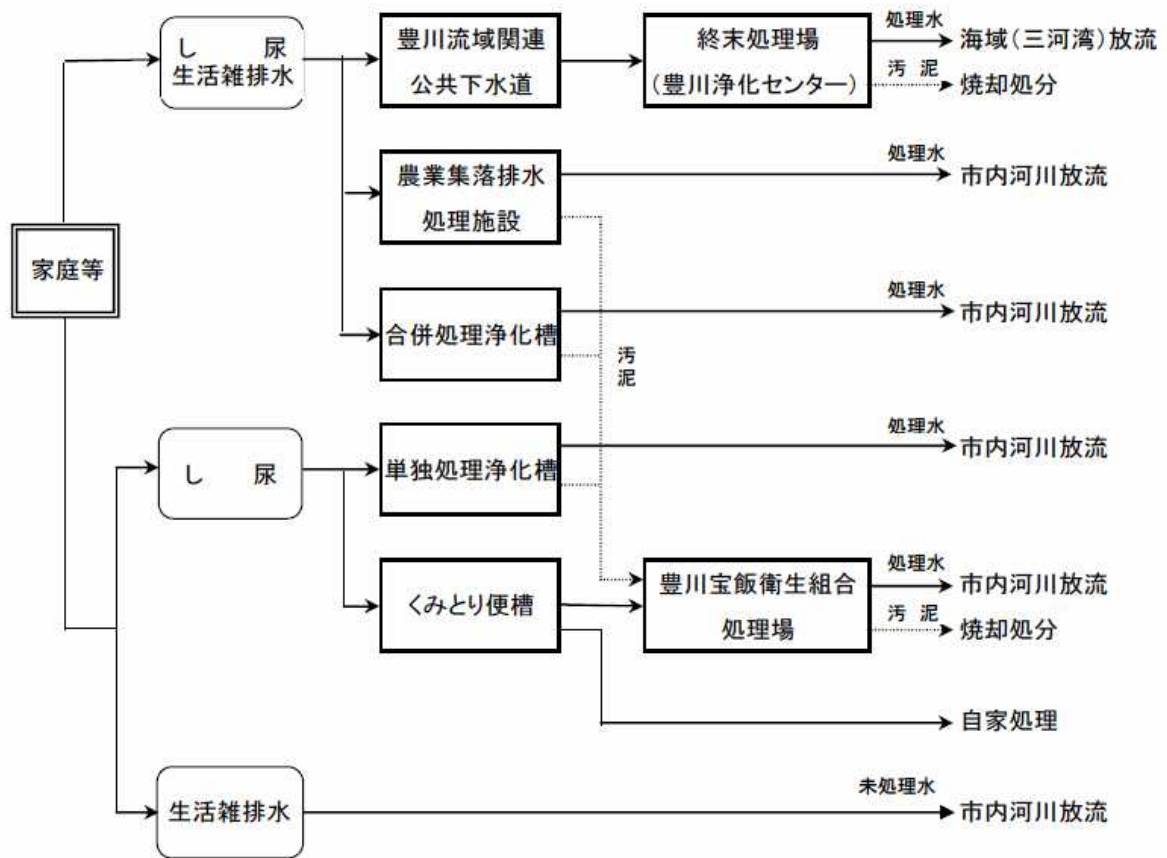


図4 - 1 生活排水の処理フロー

2. 生活排水処理形態別人口の推移

本市の過去5年間（平成14年度～平成18年度）の生活排水処理形態別人口は表4-1に示すとおりです。

公共下水道等の施設整備や、合併処理浄化槽の普及により平成18年度末の生活排水処理率は81.4%となっています。

表4-1 生活排水処理形態別人口

[単位:人]

処理形態別人口	年 度				
	H.14	H.15	H.16	H.17	H.18
計画処理区域内人口	155,588	156,347	156,869	157,274	157,923
水洗化人口	146,015	147,519	148,981	150,411	151,640
生活排水処理人口	109,103	116,373	119,203	122,860	128,501
下水道人口（処理区域内人口）	88,424	95,006	96,978	99,876	104,343
農業集落排水処理人口	2,595	2,593	3,245	3,162	3,119
合併処理浄化槽人口	18,084	18,774	18,980	19,822	21,039
単独処理浄化槽人口	36,912	31,146	29,778	27,551	23,139
非水洗化人口	9,573	8,828	7,888	6,863	6,283
くみとり人口	9,513	8,780	7,850	6,833	6,259
自家処理人口	60	48	38	30	24
水洗化率	93.9%	94.4%	95.0%	95.6%	96.0%
生活排水処理率	70.1%	74.4%	76.0%	78.1%	81.4%

3. し尿・浄化槽汚泥の排出状況

本市の過去5年間（平成14年度～平成18年度）のし尿及び浄化槽汚泥の排出量を表4-2に示します。

表4-2 し尿及び浄化槽汚泥排出量

[単位:k]

項目 / 年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
し尿	4,556	4,370	3,841	3,424	3,089
単独処理浄化槽汚泥	17,906	17,518	16,203	15,239	14,639
合併処理浄化槽汚泥	7,144	7,560	7,772	8,630	9,214
計	29,606	29,448	27,816	27,293	26,942

4. 生活排水の処理主体

本市における平成18年度末の生活排水の処理主体は、表4-3のとおりです。

表4-3 生活排水の処理主体

処理施設の種類	対象となる生活排水の種類	処理主体
(1)公共下水道	し尿及び生活雑排水	豊川市
(2)農業集落排水処理施設	し尿及び生活雑排水	豊川市
(3)合併処理浄化槽	し尿及び生活雑排水	個人等
(4)単独処理浄化槽	し尿	個人等
(5)し尿処理施設	し尿及び浄化槽汚泥	豊川宝飯衛生組合

第5章 生活排水処理基本計画

1. 生活排水処理の目標

基本目標を達成するため、概ね全ての生活排水を施設で処理することを目標にし、表5 - 1 に生活排水処理の目標を示します。

表5 - 1 生活排水処理目標

項目 / 年度	現況 (平成 18 年)	中間年度 (平成 24 年)	目標年度 (平成 29 年)
生活排水処理率	81.4%	91.2%	97.2%

生活排水処理率とは、計画区域内人口に対する生活雑排水処理人口(公共下水道、農業集落排水処理施設及び合併処理浄化槽の人口)の割合

2. 生活排水処理施設の整備計画

(1) 公共下水道の整備

現況と課題

公共下水道は、都市に欠くことのできない施設として、国土交通省や県の補助金を受けて市町村が建設する下水道で、主として人口の集中している区域の下水道整備を行うものです。

本市では、豊川流域関連公共下水道として昭和 47 年度に諏訪地区の整備から着手し、現在、第 8 次拡張計画等に沿って整備を進めています。平成 18 年度までの整備状況は、2,401ha となっています。汚水を処理する豊川浄化センターの概要は、表 5 - 3 に示すとおりです。

今後の課題としては、整備された区域の世帯に対しては早期に接続する義務がありますが、未接続の世帯も多く、速やかな接続を働きかけていきます。

表5 - 2 豊川市内公共下水道整備状況

区分 \ 年度	実績				
	H. 14	H. 15	H. 16	H. 17	H. 18
整備面積 (ha)	2,009	2,096	2,171	2,276	2,401
処理面積 (ha)	1,955	2,037	2,105	2,183	2,275
処理人口 (人)	90,443	93,982	96,978	99,876	104,343
接続人口 (人)	77,152	81,607	85,007	87,208	89,851
接続率 (/ %)	85.3%	86.8%	87.7%	87.3%	86.1%

表5 - 3 流域下水道処理施設概要

名 称	豊川浄化センター
計画区域	豊橋市、豊川市、新城市、蒲郡市、小坂井町
供用開始年月	昭和 55 年 12 月
処理面積	3,730ha(平成 18 年 4 月現在)
処理区域内人口	171,618 人(平成 18 年 4 月現在)
日平均汚水量	53,289 m ³ /日(平成 17 年度実績)
放流水質	BOD 1.5mg/、SS 2.8mg/ (平成 17 年度平均)
放流先	渥美湾

(県建設部資料より作成)

今後の計画

現在、第 8 次拡張計画等を整備しています。また、区画整理地区内においても進捗に合わせて整備をしていきます。

今後、豊川東部地区を始めとする第 9 次拡張計画(375ha)並びに音羽地区、御津地区で事業実施する予定です。

さらに第 9 次拡張計画以降についても、水質保全、生活環境の改善という観点から積極的に整備推進を図っていきます。

同時に、整備された区域の世帯に対しては速やかな接続を働きかけていきます。

表5 - 4 公共下水道処理人口見込み

[各年度末現在]

区分 \ 年度	現 況 (平成 18 年)	中間年度 (平成 24 年)	目標年度 (平成 29 年)
整備面積[ha]	2,401	2,849	3,093
処理人口[人]	104,343	116,438	124,662

施策メニュー

公共下水道の整備・接続促進



現拡張計画の推進

次期拡張計画の検討

速やかな接続の促進

(2) 農業集落排水処理施設の整備

現況と課題

農業集落排水処理施設は、農業用排水の水質保全、農業用排水施設の機能維持または、農村生活環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全に寄与するため、農業集落におけるし尿及び生活雑排水等の汚水を処理する施設で、農業振興地域内の農業集落を対象に整備されるものです。

本市では、正岡処理区を始め4処理区において供用しており、概要は、表5-5に示すとおりです。

今後は、郊外の農村集落の集合処理方式として、処理水を地域の川へ還元できる等のメリットを生かして、整備要件に該当する地域においては、地域住民の合意のもとに検討を行っていく必要があります。

表5-5 農業集落排水施設の概要

地区名	正岡処理区	千両処理区	一宮東部処理区	一宮西部処理区
処理区域	正岡町、行明町、 柑子町	千両町	江島町	足山田町・西原町・ 大木町の一部
処理面積	25.9ha	65.0ha	23.0ha	48.0ha
供用開始年月日	平成7年6月1日	平成14年6月1日	平成12年6月1日	平成17年3月1日
処理方式	接触ばっ気方式	連続流入間欠ばっ 気方式	鉄溶液注入連続流 入間欠ばっ気方式	鉄溶液注入連続流 入間欠ばっ気方式
計画人口	720人	1,380人	750人	1,080人
日平均汚水量	194 m ³ /日	373 m ³ /日	203 m ³ /日	292 m ³ /日
計画放流水質	流入水質: BOD 200mg/、SS 200mg/ 放流水質: BOD 20mg/、SS 50mg/			
放流先	農業用排水路			

(「豊川市農業集落排水事業の概要」より作成)

今後の計画

今後、農業振興地域内で農業集落として形成されている地区において、農業集落排水処理施設による生活排水処理を検討していきます。

表5-6 農業集落排水処理施設の処理人口見込み

[各年度末現在]

区分 \ 年度	現況 (平成18年)	中間年度 (平成24年)	目標年度 (平成29年)
処理区数[箇所]	4	4	4
処理人口[人]	3,119	3,149	3,147

注) 処理人口: 供用地区の現況定住人口

施策メニュー

農業集落排水処理施設の整備・
接続促進



整備要件を満たす地域における導入検討
速やかな接続の促進

(3) 合併処理浄化槽の普及・促進

現況と課題

合併処理浄化槽は、今まで家庭に広く普及してきたし尿のみ処理する単独処理浄化槽とは異なり、し尿と生活雑排水を併せて処理することができます。設置については市民が単独処理浄化槽よりも高い費用を出して行うことから、本市では、平成元年度より、生活排水対策事業の一環として、国・県の補助金を受け合併処理浄化槽設置整備事業を開始し、単独処理浄化槽との設置費の差額を補助してきました。平成13年度からは、新設時の合併処理浄化槽の設置が義務付けられたことにより補助制度の見直しを行い、補助の対象を合併処理浄化槽への転換設置のみとしました。

なお、本市の合併処理浄化槽整備事業の対象地区は次の区域を除く全地区としています。[公共下水道事業認可区域、農業集落排水事業計画区域、その他市長が指定する区域]

今後の計画

合併処理浄化槽は、生活排水の適正処理を行うことができる有効な生活排水処理施設であり、処理水の還元により河川水量維持へ寄与できること、生活排水処理を通じて環境保全を感じることができること、他の生活排水処理施設に比べ安価であることなど、投資効率の高い住民密着型の社会資本と位置づけられます。

今後、国、県などの方向や支援の動向を踏まえ、国、県の交付金・補助金制度を積極的に活用し、下水道等の集合処理施設整備認可区域外の地域において、合併処理浄化槽への転換の普及、促進を図っていきます。

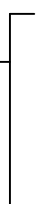
同時に、浄化槽の能力維持のため、浄化槽の適切な維持管理の推進を図っていきます。

表5 - 7 合併処理浄化槽の処理人口見込み

区分 \ 年度	現況 (平成18年)	中間年度 (平成24年)	目標年度 (平成29年)
設置基数 [基]	3,818	5,792	6,190
処理人口 [人]	21,039	28,958	30,950

施策メニュー

合併処理浄化槽の普及・
促進



合併処理浄化槽への転換設置整備事業の充実
合併処理浄化槽の必要性と補助制度のPR啓発
・機会あるごとのPR啓発
・浄化槽設置業者への協力依頼
浄化槽の適切な維持管理の推進

(4)生活排水処理施設の総合整備計画とその効果

生活排水処理施設の整備計画の概要は表5 - 8 に示すとおりです。

また、現況（平成 18 年度）、中間年度（平成 24 年度）及び目標年度（平成 29 年度）における、処理形態別人口と生活排水処理率を、表 5 - 9 に示しました。

表5 - 8 生活排水処理施設整備計画の概要

	計画処理区域	計画処理人口(人)	整備予定年度
公共下水道 第8次拡張計画	御油西部、桜町蔵子、大崎、豊川豊、樽井、正岡、駅東区画	13,150	平成 15 ~ 21 年度
一宮地区整備計画	豊津、上長山、橋尾、大木	2,729	平成 15 ~ 20 年度
第9次拡張計画	御油北部、上宿、白鳥・久保、小田淵、白鳥、八幡・野口、市田、大崎北部、豊川東部、大木区画、東上本村、北岡、松原、鍮水・石道・荒屋、上新切・野添	12,350	平成 21 ~ 30 年度
音羽地区整備計画	萩	1,128	平成 20 ~ 25 年度
御津地区整備計画	広石、御馬、赤根、豊沢	425	平成 20 ~ 26 年度
合併処理浄化槽	集合処理対象区域外	30,950	平成 20 ~ 29 年度

表5 - 9 生活排水処理形態別人口と生活排水処理率

[単位:人]

処理形態別人口	年度	現況	中間	目標
		H. 18	H. 24	H. 29
計画処理区域内人口		157,923	162,871	163,324
水洗化人口		151,640	160,072	162,584
生活排水処理人口		128,501	148,545	158,759
下水道人口（処理区域内人口）		104,343	116,438	124,662
農業集落排水処理人口		3,119	3,149	3,147
合併処理浄化槽人口		21,039	28,958	30,950
単独処理浄化槽人口		23,139	11,527	3,825
非水洗化人口		6,283	2,799	740
くみとり人口		6,259	2,799	740
自家処理人口		24	0	0
水洗化率		96.0%	98.3%	99.5%
生活排水処理率		81.4%	91.2%	97.2%

注)現況(H. 18)の計画処理区域内人口は、旧豊川市、旧音羽町、旧御津町の平成 19 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳人口を合計したものである。

3. し尿・浄化槽汚泥の処理計画

(1) 収集運搬計画

し尿及び浄化槽汚泥の収集運搬は、現行とおり許可業者により行います。

(2) し尿及び浄化槽汚泥の処理計画

し尿及び浄化槽汚泥の中間処理並びに最終処分については、今後も豊川宝飯衛生組合により実施するものとします。

現況（平成 18 年度）、中間年度（平成 24 年度）及び目標年度（平成 29 年度）における、し尿、浄化槽汚泥の排出量を、表 5 - 10 に示しました。

表 5 - 10 し尿、浄化槽汚泥の排出量

[単位:k]

年度 区分	現 況 (平成 18 年)	中間年度 (平成 24 年)	目標年度 (平成 29 年)
し尿	3,089	1,379	426
単独処理浄化槽汚泥	14,639	9,219	5,489
合併処理浄化槽汚泥	9,214	12,366	14,229
合計	26,942	22,964	20,144

4. その他

生活排水対策の必要性、浄化槽管理の重要性等について住民に周知するため、定期的な広報・啓発活動を実施します。

特に、生活雑排水については、台所での対策など家庭でできる対策について、生活排水学習会開催時に水きりネットなど生活排水対策資材の配布等の取組を実施していきます。

浄化槽については、定期的な保守点検、清掃、及び法定検査について、広報等を通じてその徹底に努めるものとします。